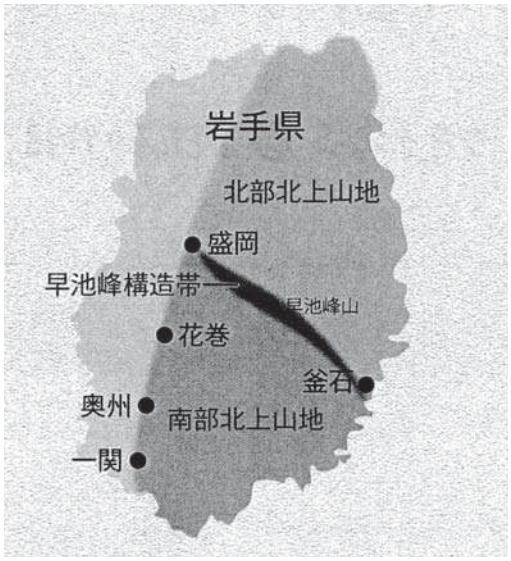
早　池　峰　山

仙台市　**国 京　潤 一**

早池峰山の形成

早池峰山は岩手県北上山地の中央部に有り、岩手山に次ぐ標高 1917m の岩手県第 2 の高山です。北上山地は形成過程が異なり、地質構造も異なっている北部北上山地と南部北上山地が合体したものです。北部北上山地形成基盤はジュラ紀（1.9 ～ 1.4 億年前）頃に形成され、太平洋プレートによって運ばれてきて、ユーラシア大陸の東縁についた付加体です。これに対して、南部北上山地形成基盤は、シルル紀（4.4 ～ 4.1 億年前）頃に形成された古代大陸（ゴンドワナ大陸）の北縁の断片です。前期白亜紀（1.5 億年前）頃にプレート・テクトニクスによって北部北上山地形成基盤と南部北上形成基盤が衝突し、大島造山運動によって陸化し北上山地になりました。



北上山地を南北に分ける早池峰構造帯（「トランヴェール」7 月号より。「早池峰　少年ケンジを魅了した石の物語」）

南北北上山地の境界である盛岡市から早池峰山を経て釜石市に至る蛇紋岩が分布する直線的な帯状を早池峰構造帯といいます。この構造帯は南部北上地層の最底部を構成するオルドビス紀（5.1～4.4 億年前）頃に形成された蛇紋岩がめくれあがったといわれています。早池峰山は陸化した時点ではすでに原型が高かった説や浸食作用によって固い部分が残った残丘の説が有ります。

早池峰山の植物

早池峰山の北斜面と南斜面とでは植生が大きく異なっています。北斜面は緩やかな傾斜で表土の蓄積も豊富なため、1600 ～ 1700m 付近まで亜高山帯林が見られますが、南斜面は急傾斜で岩石の崩落、落石が甚だしく岩礫性裸地で 1300m 付近までしか亜高山帯林は見られません。

早池峰山を主峰とし東の剣ヶ峰、西の中岳、鶏頭山に連なる早池峰連峰には、約 700 種確認されており、そのうち 140 種程が高山植物です。ここには固有種、南限種、北限種が多く植生しており、きわめて珍しいといわれています。

1）固有種・・・5 種

ハヤチネウスユキソウ（キク科）